

令和元年度 畜産研究課 試験研究課題一覧

	研究課題名	研究内容	研究期間	担当	共同・協力機関
1	健康な子牛を産ませる移行期栄養管理技術の開発	βカロテンを多く含有する自給飼料の移行期への給与が、初乳中免疫物質含有量に及ぼす影響について検討するとともに、移行期の栄養水準が母牛の疾病リスクと免疫物質含有量に及ぼす影響について調査し、子牛の健康生との関係を評価する。	H31 ～ R3	酪農	
2	乳用牛の泌乳量の平準化とAI(人工知能)の活用による健全性向上技術の開発	泌乳平準化や乾乳期間の短縮等、乳用牛の最適な生産サイクルを確立・提示することで、乳牛の生涯生産量の向上と低コスト生産を両立する酪農モデルの構築を目指す。	H28 ～ R2	酪農	岐阜県 岡山県 広島大学 家畜改良センター
3	乳用牛の泌乳中のエネルギーバランスにおける遺伝的能力評価形質の検索	乳用牛における生涯生産性の育種改良に必要な評価形質の解明並びに生涯生産性における遺伝的能力評価手法の開発について検討する。	H29 ～ R1	酪農	筑波大学 酪農学園大学 (他11府県)
4	乳牛の分娩間隔短縮を図る抗酸化物質給与技術の検討	乳牛の平均分娩間隔延長の改善を図るため、抗酸化物質(ポリフェノール等)給与による分娩間隔の短縮化に伴う収益向上について検討する。	H29 ～ R1	酪農	
5	中規模酪農経営改善推進事業(乳用牛群検定普及定着化事業)	検定成績の分析指導と牛群検定農家及び検定指導員を対象として、牛群検定情報の活用促進を図るための研修会を開催する。	H13 ～	酪農	県酪連 牛群検定組合
6	家畜改良総合対策推進事業	受精卵移植技術により、県内で飼養されている乳牛の優良遺伝子を有効活用し、酪農経営の維持発展を図る。	H20 ～	酪農	
7	県有種雄牛造成対策事業(牛凍結精液の生産性向上に向けた研究開発)	徳島大学との連携により、種雄牛から採取した精液の、凍結融解後の運動性及び生存性の改善を図る。	R1	肉牛	
8	県有種雄牛造成対策事業	阿波畜産ブランド「阿波牛」の増産体制を構築するため、①精液供給体制の整備、②生産農	R1	肉牛	
9	県有種雄牛精液の高品質安定供給に向けた飼養管理技術の開発	優良精液の安定供給を図るため、日本仕様標準の発育曲線及び栄養水準を指標に、採精した精液正常を検査し、季節及び月例における個体毎の最適飼料給与設計を確立する。	H31 ～ R3	肉牛	
10	ICT技術(発情検知システム)を活用した肉用雌牛の繁殖管理の効率化	ICT技術を活用した肉用雌牛の繁殖成績の向上と効率的な受精卵生産システムを構築する。	H31 ～ R3	肉牛	
11	ICT技術を活用した省力化と肥育期間短縮による収益向上の検討	肥育農家の経営安定化を図ることを目的に、肥育期間短縮に向けた早期肥育技術を開発する。	H30 ～ R2	肉牛	
12	受精卵供給センター事業	黒毛和種牛の優良受精卵を採卵し県内畜産農家に供給することにより、繁殖牛の改良と肉用素牛の増頭を図る。	H1 ～	肉牛	
13	県産飼料用米の活用による和牛肥育技術の確立	県産飼料用米給与による効率的かつ飼料コスト削減を可能とした和牛肥育技術の確立を図る。	H29 ～ R1	酪農・肉牛 (肉用牛)	
14	香酸柑橘類を活用した高付加価値豚肉生産技術の開発	県特産品であるスタチなどの香酸柑橘類残渣を肥育期飼料として活用し、輸入肉及び一般国産豚肉との差別化、高付加価値化を図った豚肉を生産する技術を開発する。	H29 ～ R1	養豚	
15	DNAマーカーを活用した大ヨークシャー種繁殖性改良技術の開発	大ヨークシャー種の繁殖性等の生産性の改良について、DNAマーカー情報を活用して効率的な繁殖能力の改良技術を開発する	H29 ～ R1	養豚	
16	豚の遺伝子再生技術の確立	口蹄疫汚染等のリスク管理の一つとして、これまでに開発・改良したブタの遺伝資源の保存および再生技術を確立する。	H29 ～ R1	養豚	
17	開放型育種による効率的な豚の改良技術に関する試験	アワヨークで用いていた閉鎖群育種による系統造成に対し、他系統より能力の優れる種畜を導入し、育種価による能力評価と選抜を繰り返すことで、小規模かつ効率的に種畜を改良する手法を開発する。また、改良した種畜の農家供給を図る。	H31 ～ R7	養豚	
18	阿波とん豚の維持に関する試験	維持系統における遺伝子型固定豚の増頭、肉質に関わる候補遺伝子領域の絞り込みによる選抜効率の向上及びBLUP法を活用した繁殖能力の改良等を検討し、阿波とん豚種豚の安定供給を図る。	H28 ～	養豚	
19	阿波とん豚増産・流通システム確立事業	従来の猪とは別の猪由来の新しい家系の作製、繁殖性の高まる飼養技術の検討、徳島大学の技術支援を受け、「受精卵移植」など新たな増産技術を確立し、「阿波とん豚」の種豚供給体制を強化する。	H29 ～ R1	養豚	
20	阿波とん豚の生産性改良技術の開発	これまでの研究で繁殖性と関連性が示唆されたDNAマーカーについて、調査数を増やし、DNAマーカーとしての有効性を検証する。	H28 ～ R1	養豚	
21	輸出用「阿波尾鶏」品質保持技術の開発	輸出に必要な冷凍解凍処理が阿波尾鶏の肉質に与える影響を最小限にし、海外市場において本来の味や食感を発揮できる品質保持技術を開発する。	R1	養鶏	
22	タテ藍活用飼料による美味しい高品質鶏肉生産技術の開発	食用藍の利活用を進める事業者と連携して飼料利用体制を構築し、鶏肉品質や生産性を高める本県独自の肉用鶏飼養技術として確立を図り、現場実証により実用性を検討する。	H31 ～ R3	養鶏	(株)ボン・アーム 貞光食糧工業(株)
23	UVA-LED光照射システムの導入による鶏舎内環境の最適化	新しい鶏舎光制御手法を構築するため、徳島大学が開発を進めるUVA-LED光照射システムによる肉用鶏鶏舎の衛生管理や鶏の成長促進への有用性と安全性の評価に取り組む。	R1	養鶏	徳島大学 (1,000)
24	阿波尾鶏の経営力を高めるLED照明技術の開発	行動制御効果の高い青色LED光と、生育後期の増体向上効果が高い白色LED光が「阿波尾鶏」の生育に及ぼす影響を調査し、慣行飼育に適する照明プログラムを作成する。	H30 ～ R2	養鶏	
25	阿波尾鶏安定生産確保事業	「阿波尾鶏」の品質保持及び安定生産を図るため、生産規模に応じた原々種鶏群系統の維持及び種卵供給に取り組む。	H13 ～	養鶏	養鶏協会

	研究課題名	研究内容	研究期間	担当	共同・協力機関
26	稲ワラサイレージ品質安定技術の開発	稲ワラサイレージの品質向上を図るために、稲わらにカビが発生する条件の解明と、農研機構が開発中である新たな乳酸菌製剤を含めた添加剤3種類を使用し、稲わらサイレージの品質向上および長期保存における効果を検証する。	H31 ～ R3	飼料環境	
27	高能力飼料作物品種選定調査	本県に適した生育性・収量性に優れた飼料作物の品種選定を行い、優良品種の普及促進に努め、粗飼料自給率の向上を図っていく。	H22 ～	飼料環境	
28	飼料関連事業	生育等の優れた飼料作物の研究・普及を図る。 低コスト放牧の拡大、公共牧場の活用等を通じた日本型放牧の普及・定着を図る。	H26 ～	飼料環境	
29	府県型イアコーンサイレージ生産利用体系の開発と実証	国産濃厚飼料の生産システムの構築を目的に、野菜農家の緑肥作物として飼料用トウモロコシを栽培し、子実(イアコーン)のみ収穫を行い、家畜の濃厚飼料とする作業システムを構築する。飼料用トウモロコシの茎葉は野菜の緑肥とし、その効果を検証する。	H29 ～ R1	飼料環境	革新工学セ タカキタ 岡山農総セ フタバ飼料 西日本農研
30	不耕起栽培を利用した暖地2年5作体系による飼料増産技術の開発	不耕起栽培を取り入れた西南暖地における2年5作体系の省力的な飼料作物栽培技術を確立する。	H27 ～ R1	飼料環境	
31	自給飼料生産における採草地利用の省力化技術対策	採草地における圃場管理作業の省力化を図るため、通常、年2回行われる春秋の播種作業を秋1回に集約し、新たな飼料作物体系を開発する。	H31 ～ R3	飼料環境	
32	畜舎汚水処理水の水質向上技術の開発	一般排水基準が導入されても対応可能なように、処理水中の硝酸態窒素(N)、リン(P)、COD等を低コストで低減する三次処理技術を開発する。	H31 ～ R3	飼料環境	
33	畜産バイオマス活用推進事業・堆肥分析センター(環境汚染防止対策)	畜産経営における環境汚染防止を図るため、総合的な指導体制を整備するとともに堆肥の効率的な生産・利用を促進する。	H28 ～	飼料環境	
34	畜産バイオマス活用推進事業・堆肥分析センター(堆肥等品質・成分分析)	堆肥、尿汚水の品質、成分分析を実施する。	H28 ～	飼料環境	